II-1. 調査と研究

飛鳥藤原京の発掘調査

飛鳥・藤原地域では1996年度に30件の発掘調査をおこなった。以下、主要な調査を概観する。

藤原宮関係の調査は７件。西方官衙南地区の調査（第82次）では、藤原宮期には遺構が希薄であることを確認、宮に先行する条坊遺構（西二坊坊間路、五条大路）も検出した。坊間路側溝からは「評」木簡が出土。下層の古墳時代の水田、川などは四分遺跡北辺の状況を示す。

藤原京関係は９件。右京一条一坊西北坪の調査（第81次）では、南北棟を主体とする小規模な掘立柱建物、井戸、土坑等からなる遺構群を検出し、工房関係遺物や和同銭など注目される遺物が出土し、宮北方における坪内の様相をうかがう好資料を得た。左京七条（第81-１次）では、東三坊坊間路とその東側溝、および側溝を埋めて設けられた南北塀を検出している。

飛鳥関係は12件。水落遺跡（水落遺跡第９次）では、水時計跡の東南に隣接して、飛鳥時代の大規模な四面庇付東西棟掘立柱建物を検出。飛鳥寺西門地区の調査（飛鳥寺1996-１次）は、40年ぶりに西門跡を再検出し、構造、規模を再確認するとともに、門西方で、土管暗渠、石組み大溝、掘立柱南北塀や、石列など７世紀の前半から後半に至る詳細な変遷をあきらかにした。飛鳥寺寺域内の調査（飛鳥寺1996-３次）では、西面大垣、暗渠などを確認。飛鳥寺東南部の調査（第84次）では、７～８世紀代の東西溝、周囲に石敷をめぐらす井戸などを検出。飛鳥寺寺域区画施設や飛鳥池工房（1991年調査）との関連が課題で、調査は1997年度も継続する。川原寺寺域西部の調査（川原寺1996-１次）では、木樋暗渠、築地などを検出し、寺域西南部の調査（川原寺1996-２次）では、寺の創建に関わるとみられる掘立柱建物を検出した。山田寺南面東回廊の調査（山田寺第10次）は、保存良好な地覆材や屋根瓦の状況から回廊の建設から廃絶に至るプロセスを解明し、坂田寺（坂田寺1996-１次）の調査では、西面回廊の石組の内側雨落溝を検出した。

以上のほかに、桜井市吉備における調査（第81-14・16次）で、７世紀半ばの大規模な寺院跡を確認し、「吉備池廃寺」（きびいけはいじ）と命名した。金堂と推定される巨大な版築基壇や、出土瓦などから、舒明天皇が建立した百済大寺の可能性が高い。以上の調査成果の詳細については、年報IIを参照されたい。なお、発掘調査にともなう現地説明会は、以下の日時におこなった。

（千田剛道）

６月15日　山田寺第10次（南面東回廊）佐川正敏・藤田盟児
10月５日　飛鳥寺西門地区　花谷浩
３月１日　吉備池廃寺　小澤毅